

# 平成 28 年度第 2 回大台ヶ原ガイド制度導入に向けた意見交換会

## 議事概要

■ 日 時 平成 28 年 9 月 7 日 (水) 13 : 30 ~ 16 : 00

■ 場 所 エル大阪 701 会議室

■ 出席者

### <ガイド>

飛鳥トレッキングガイドサービス	西浦 勝也 代表 西浦 里美
エコツーリズム協会しが	吉見 精二 事務局長
関西山岳ガイド協会	荒木 研一 副会長
個人ガイド	山口 秋夫

### <大台ヶ原の利用に関する協議会 ガイド制度検討部会>

奈良県くらし創造部 景観・環境局 景観・自然環境課	谷村 志穂 主任主査
------------------------------	------------

### <事務局>

近畿地方環境事務所	榎本 和久 国立公園課長 蒲池 紀之 自然再生企画官 矢部 敦子 係員
吉野自然保護官事務所	菅野 康祐 自然保護官 井藤 大樹 自然保護官補佐
株式会社スペースビジョン研究所	安場 浩一郎 小川 遥

## ■ 議 事

- (1) 大台ヶ原ガイド制度の検討スケジュールについて
- (2) 大台ヶ原ガイド制度に関する論点とそれに対する対応について
- (3) ガイドテキストの改訂について
- (4) その他

## ■ 議事概要

### 1. 大台ヶ原ガイド制度に関する論点とそれに対する対応について

#### (1) 対象地域の範囲について

- ・ 22 番の防鹿柵は歩道に近く、自然再生事業の成果を見せるのに適しているため、登録ガイドへの特典として、ぜひ公開してほしい。
- ・ 防鹿柵の内部を公開する場合、常時踏圧を受けることになるため、木道の設置などが必要にな

るのではないか。

- ・防鹿柵内の公開はガイドのステータスになるが、踏圧を受けることや、木道の設置などで手を加えることには抵抗感がある。

## (2) ガイドの登録要件について

### 1) 「登録ガイド心得」及び「ガイド事業共通ルール」への同意

(特に異議なし)

### 2) 保険の完備

- ・利用者の保険加入を必須とするのであれば、金額まで決める必要があるが、旅行会社のツアーでは、旅行会社が一括して保険をかける場合もあり、ガイド側でコントロールできない部分大きい。利用者の保険加入を必須にするとガイド制度のハードルが高くなるのではないか。

### 3) 救急法の受講

- ・MFA（メディカルファーストエイド）も要件を満たす資格に入れてほしい。
- ・救急法は、年に1回の受講を義務付けた方が望ましい。

### 4) 協議会が定める資格の取得

- ・自然公園指導員と日本体育協会の山岳指導員も要件の資格に加えてほしい。
- ・原案のとおり、資格が無くても大台ヶ原に精通している人は、構成機関の長の推薦を要件とするということによい。

### 5) 協議会が実施する講習会の受講

- ・講習会は、できるだけ奈良市や吉野町などで開催して、わずかでも地域に還元することを考えてほしい。

## (3) 登録料金について

- ・初年度だけでなく、更新時にも支払うのであれば、「登録料」という名称よりも、「初年度入会金」等とした方が理解しやすい。
- ・年会費を取るのであれば、会報やメルマガによる情報提供などのメリットがないと、抵抗感があると思う。
- ・年会費を取るのであれば、登録料と同様に、金額の具体的な根拠、何に使うのかといった点を示してほしい。
- ・年会費を払っているのに、西大台に入る際に手数料を取られるのは負担が大きくなる、

## (4) ガイドに関する評価の仕組みについて

- ・詳細に評価をするなら、ガイドの服装、説明などの項目を設けて、項目ごとに評価してもらう必要がある。
- ・精度の高いアンケートを取りたいのであれば、後日郵送ではなく、その場で書いてもらった方

がよい。

- ・協議会がホームページ等で提供しているガイド情報と、実際のガイドの内容が合致していたかといった点についてもアンケートで聞く必要がある。

## 2. ガイドテキストの改訂について

- ・大台ヶ原を説明する上で必要なことをまとめた冊子に加えて、ガイドとしての心得などをまとめたガイドが携帯できるような冊子があるとよい。
- ・地域の誇り、地域の宝物、生活文化なども、地域振興を図っていく上で重要なので、項目として追加してほしい。また、ガイディングの方法・技術等に関する項目があってもよいのではないかな。
- ・制度の開始時に、エコツアーガイド養成講習会を誘致して、全国から参加者を募り、登録ガイド申請者もその一部を受講するといったことをやってみてはどうか。